グローバル・カフェ「留学報告イベント（ブルネイ・ダルサラーム大学）」を開催しました

6 月 4 日（火）、留学報告イベント（ブルネイ・ダルサラーム大学）を開催しました。本学交換留学制度(EXPLORE)によるブルネイ・ダルサラーム国での留学生活を終えた川口黎明さんと土井萌未さんが、ブルネイ・ダルサラーム大学（以下、UBD）での授業の様子、現地での生活などを紹介しました。留学生 5 名、日本人学生 4 名、教職員 4 名の計 13 名が参加しました。参加者のうち 4 名はさぬきプログラムで来学中の UBD 学生でした。

川口さんは、今回の留学目的を日本と異なった文化や価値観を学ぶこと、教員志望であるため、将来自身の体験を子どもたちに伝えられるようになることとし、UBD では 5 科目（歴史学、社会学、英語学、初級マレー語、トルコ語）を履修しました。各科目 1 コマの授業は約 3 時間（授業 120 分、チュートリアル 60 分）すべて英語で行われます。講義中、学生が自由に発言や質問ができる反面、自ら積極的に授業に参加しないと、グループワークには入れず課題も進まないと話しました。バドミントン、卓球、フットサル 3 つのクラブを掛け持ちし、各クラブに所属する UBD 学生らとの交流も深めたそうです。今回の留学から得たものは、お祈りや食事など生活慣習の違いや、言語能力だけではなくコミュニケーション力の向上が必要であると体感できたことと述べました。

土井さんは、留学先としてブルネイを選んだのは自身にとって未知の国で、その環境に身を置くことで自身がどう感じるか、何ができるかを考えることで、新しい自分を発見できるチャンスだと思ったと語りました。現地では授業中、教員と学生の距離が近く、教員の発言中であったとしても学生はどんどん質問を投げかけていて、発言をしないのは授業に参加していないのと同じ、出席にもならないという UBD 学生に刺激を受けたと述べました。寮は 5 人で 1 つのキッチン、洗面台、シャワー、洗濯機を共用、寝室は個室（ベッド、学習机、エアコン、クローゼット付き）で快適に過ごせたとのことで、寮で知り合った韓国人留学生とは意気投合し、休暇中に二人でタイ旅行を楽しんだと写真を交えて紹介しました。帰国後は英語で話すことへの抵抗感がなくなり、アルバイト先で海外観光客にも積極的に話しかけることができるようになった、たとえ間違った英語だったとしても、諦めずに何度も挑戦し続けていく心を持つことが大切、と留学を振り返りました。

イベントに参加していた UBD 学生から「食事は何が一番美味しかった？」との問いがあり、両者とも「Nasi Goreng（焼き飯）」がお気に入りと答え、川口さんは週に 3 ~4 回は食していたとのことで、UBD 学生らから拍手が起こる場面もありました。